

# 「残そう伝統文化」 ファシリテータ：一見さん 記録：伊藤

## 1. 自己紹介 19名参加

## 2. 話し合い

伝統文化を有形と無形に分けて議論した方がいい（無形は特に難しい）。

有形伝統文化

- ・ 地藏、灯籠など
- ・ 野登山（山を歩く道などを整備）
- ・ 関の城山（里山としての位置付け）
- ・ 松並木（毎年植樹）
- ・ 峯城

無形伝統文化

- ・ かんこ踊り（池山、加太、白川、神辺、など） 灯おどり
- ・ 雪月花（歌）、峯の月（邦楽）

かんこ踊りについて：小学校から教えているが、上になるにつれ離れる者がいる、踊りそのものの魅力がないと。でも、本来のあり方は外せない。

気持ちの検証が重要：地域から喜んでもらえるという視点を。

見直されている部分もある。外部からの熱意で、再発見することもある。

学校への働きかけは必要。子供が来たら親も着いてくる。

関ではコミュニティで引き継いでいくという考えも強い。

踊りも歌も万国共通。十分可能性はある。

PR が重要である。

世代の問題。ある世代だけ全く知らないということも存在する。

## 3. まとめ

有形文化については身近な物の見直し、掘り起こしが必要という意見が多かった。

無形文化については、とにかく継承が問題で、そのポイントは子供に置かれていた。

そのためには、まず身近な地元でPRしていくことが必要ではないか、という意見が強かった。